

レジ袋有料化の目的は、1人1日1枚使っていると言われているレジ袋を有料化することで、不必要なレジ袋の使用を削減するとともに、レジ袋にとどまらず、使い捨てプラスチック全体についての意識が変わり、外出の際は常にマイバッグやバイボトルを携帯するというような1人1人の前向きな行動変容に繋げていくことです。

奇しくも、現在、新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、不要不急の外出は避け、3密を避けるというまさに行動変容が求められている中で、更なる行動変容をお願いするという事になってしまっているのですが、今回の新型コロナウイルスの影響により、一部の物品の供給が滞ったり、当たり前のように受けていたサービスが受けられない状況になっています。いかに私たちの便利な生活が国外含めて様々な人や物の供給の上に成り立っているかを思い知らされました。やはり大量生産・大量消費の社会・経済から、省資源、循環型の社会・経済にシフトしていくことが豊かで持続可能な社会のために必要なのだと改めて感じています。

ぜひ皆さまもレジ袋有料化を一つのきっかけとして、地球に優しくサステイナブルなライフスタイルを目指していきましょう。

大阪商業大学 原田禎夫准教授

1) 4/1 から一部で有料化がスタートしましたが、どうでしたか？

亀岡市では昨年8月にスーパーでの有料化がスタートし、3月議会ではレジ袋禁止条例が可決・成立したことが大きなニュースとなりました。

4/1 から有料化がスタートした、というよりは、その流れを受けて先行して有料化された小規模なお店がある、というところです。

ミスタードーナツなど、全国チェーンのお店の取り組みもありますが、あまり大きな話題にはなっていません。

2) 無料配布を継続する店舗をどう思われますか？

プラごみ問題に対して、関心が薄いのではないかと思います。

3) 「レジ袋」の次の、削減対象をどう考えられますか？

使い捨てプラスチック全般ですが、まずは野外イベントなどでのリユース食器等の導入により、引き続き消費者、店舗の意識改革を進めていくことが大事だと思います。

(野外イベントはごみの散乱リスクも高いため)

また、新型コロナウイルスでテイクアウトやデリバリーが急増していますが、そこでの使い捨てプラスチックの削減も急務と考えます。

富山県環境政策課主幹 森友子さん

1) 4/1 から有料化が一部でスタートしましたが、どうでしたか？

有料化をきっかけにマイバッグ持参が促進されることに期待したい。

なお、富山県では平成20年4月からレジ袋無料配布廃止を開始したが、それまで10～20%だったマイバッグ持参率が9割を超え、近年は95%となっており、効果が期待できると思う。

2) 無料配布を継続する店舗をどう思われますか？

事業の特色から難しい業種・分野があるのかもしれないが、できるだけ無料配布は取りやめていただきたい。

3つの例外袋の使用は環境負荷の増大とともに、分かりにくいとの消費者の声もある。

また、有料化に対しての消費者の反応などを不安に思われる事業者がいらっしゃるかもしれないが、富山県の例では、消費者団体や事業者、行政が連携してしっかり周知を行った。

こうしたことが功を奏し、消費者の理解が促進され、大きな混乱もなくスタートできている。

本県をはじめとした成功事例もあり、また環境省・経産省等と連携した周知も期待されることから、積極的に有料化への切り替えを検討いただきたい。

3) 「レジ袋」の次の、削減対象をどう考えられますか？

富山県では、食品用プラスチックトレイ削減・転換の検討を始めている。消費者団体からも、台所に溢れるトレイを何とかしなくてはならないとの声が聞かれている。

レジ袋無料配布廃止で培った消費者団体・事業者・行政の連携の枠組みを活用して取り組みたいと考えており、まずはトレイの使用実態や削減・転換に向けた課題等を整理している。

チェーンストア協会 増田充男執行理事

1) 4/1 から一部で有料化がスタートしましたが、どうでしたか？

4/1以降、準備の整った会員社からスタートしています。いずれにしても、7/1の完全実施に向けて準備を進めています。ただし、新型コロナウイルス対策の影響が心配です。

2) 無料配布を継続する店舗をどう思われますか？

政府の方針に沿った対応を実施すべきと思います。

3) 「レジ袋」の次の、削減対象をどう考えられますか？

小売業では、トレイが挙げられると思いますが、衛生管理等の観点も十分に踏まえ検討を進めたいと思います。

フランチャイズチェーン協会 西山純生環境委員会委員長

1) 4/1 から有料化が一部でスタートしましたが、どうでしたか？

コンビニエンスストアにつきましては、7/1有料化をトラブルなく迎えられるように準備中であり、現時点でのコメントはございません。

私どもは、フランチャイズというビジネスの形態上、公正な取引の観点から、本部が加盟店に対して、価格やレジ袋の仕様の強制はできません。あくまでも加盟店の判断ということになります。そのため、今回の有料化の主旨を踏まえ、有料化が目的ではなく、削減が目的であることを正しく周知していかなければと考えております。

現在、本部と加盟店の役割分担の関係から、レジシステムの変更やレジ袋の調達、また、

会計処理システムの変更や販促物の準備など、多岐にわたる作業を進めている所です。

2) 無料配布を継続する店舗をどう思われますか？

世の中全体の小売店で考えると、スタート当初は無料配布の店舗も出てくると思われますが、時間の経過とともに、消費者と事業者の理解が進んでいくものと思われます。

無料配布は店舗の意志だけでなく、消費者からの要求として、応えざるを得ないケースも多いと思われますので、何よりも、国から消費者への「目的の」周知啓蒙が最も重要と考えます。

3) 「レジ袋」の次の、削減対象をどう考えられますか？

私どもは全ての容器包装に対して、以前から既に可能な限り代替素材の利用や薄肉化などに努めて来ました。今後はカトラリーなども含めて検討をしてみたいです。

東京都地域消費者団体連絡会 奥田明子共同代表

1. 4/1 から有料化が一部でスタートしましたが、どうでしたか？

この辺りでは、リミット 7/1 と思われています。

すでに、4 月からスタートしたスーパーもあります。順調に推移しているように思われます。

有料化は時の流れとして受け入れられているようです。

私は週に 1 回地元の農協で野菜の販売に参加しています。

今年から、有料化へ向けて、レジを通る客にレジ袋を持参しているかをわざと訪ね、必要かどうか

確認していましたが、最近はずわざと確認せず、一切触れません。すると、持参していない客は袋はないのと尋

ねてきます。必要ですか？とわざと尋ねますと、もう有料になったの？と聞いてきたりしますが、

くださいというまで、渡しません。おかげでかどうか、毎日 200 枚余り無くなっていたレジ袋が、最近では

20 枚くらい。有料化にせずとも 10 分の 1 くらいに減っています。

2. 無料配布を継続する店舗をどう思われますか？

無料配布を維持する店が思い当たりませんが、贈答品の店でしょうか。

手土産用の店等は価格に含まれていると思っています。

3. 「レジ袋」の次の、削減対象をどう考えられますか？

生活にすっかり入り込んでいるポリ。毎週出しているポリごみは、菓子類の容器包装がほとんど。

特に糖尿病予備軍の息子の買ってくる水菓子はプラプラしています。亭主の好きなせんべいあられ類は、価格が高いものほど、プラの使用量が少ないと感じます。安いものは個袋に入れてなお、中敷のプラを使用していたりします。

家を留守にしたときに、息子と亭主の生活はプラに囲まれています。台所中プラごみだらけになっていました。

弁当・おかず・デザート・飲料要するに食生活の技術が不足しているわけです。貧困な生活を下支えしている。

ちょっとした生活技術を習得するか、プラに支えられるか。プラとともにある豊かな生活は、元になる技術があってこそその代替。

都地消連では 2002 年の東京都との協働によるレジ袋 NO デーの出口調査に参加して以来、2003 年からは食品レジの近くでの目視調査に替えて、17 年間継続して実施してきました。

毎年、都内のスーパー100店舗あまりを、一斉に調査しています。

2003年当時のチェーンストア協会の目標は30%。実態は、高齢者層でのみで、20%がやっとでした。

30%を超えたのは、5年後。しかし当時からレジ袋の有料店では、楽々80%を超えていたのです。

それから10年。無料店の数字がやっと40%に迫ってきました。反対に有料店の数字は70%前後に落ちてきています。

調査を始めてから、消費者の考え方も、急速にレジ袋を減らす方向に向かっています。

いずれにしても、今年全店が有料化したら、少なくとも60%を超えて、どこまで行くのか、今秋の調査を楽しみにしています。